Ｏｃｔ　２０１４　Ｎｏ．４２

大垣市金生山化石館

化石館だより

コラム

風化した砂礫を洗ってみると

今回の企画展には、故熊野敏夫先生が観察されていた化石標本が展示してあります。その中に小型の巻貝がいっぱい浮き出ている石があります。石灰岩から突き出ている巻貝の一つ一つには、朱墨で小さな点が打たれ、石の裏面には熊野先生自筆の観察メモが貼り付けてあります。

“風化が進んだ石灰岩の表面に、貝の化石がたくさん浮き出ている”。五、六十年前の金生山では、まだこうした岩が見られたようです。また、こうした岩の下には、巻貝の化石が単体でこぼれ落ちていて拾うこともできたと言われています。山で化石の貝拾いができたのです。昔の金生山とはどんなに素晴らしい山だったのでしょう。想像するだけでワクワクします。

現在の金生山にも石灰岩の割れ目に水が入り込んで風化が進み、岩の表面が柔らかくなっている場所がみられます。泥質でフズリナや小型巻貝が密集している層では、風化面をワイヤブラシでこすると化石が浮き出てきます。このような層の風化がもっと進行すると、ボソボソした砂礫の層に変化していきます。この砂礫の部分をかき取ってきて水洗いし、乾燥させた後で篩（ふるい）にかけてみると、石灰岩の礫に交じって単体のフズリナや巻貝の化石を見つけることができます。そしてよく観察すると周囲の石灰岩の礫は小さく破損した貝化石の一部であったり、フズリナ化石の一部であったりすることに気が付きます。また、ふるい分けられたより細かな砂をシャーレに移

し実態顕微鏡を使って探してみると、更に小さな巻貝やミッチアという石灰藻、貝形虫などが見つかることもあります。風化した砂礫に保存されていたこうした小さな化石は、表面の彫刻が不明瞭なものもありますが、形がきれいに残されているものが多く、顕微鏡を覗きながら感動してしまいます。

顕微鏡サイズの小さな化石は、これまであまり注目されませんでした。金生山の化石は大きなものが有名で、そちらの方に目が向けられていたからでしょう。しかし、砂礫の中に残された小さな化石には新種が含まれている可能性も高く、大いに注目されるべきです。近年、このような小さな化石に気付いた人たちによって、既にいろいろな発見がなされています。そして新種の報告も出るようになってきました。また、石灰岩を酸で処理することにより、小さな魚の歯や、コノドントなどの微化石も発見されています。金生山では、まだまだ新しい化石の世界が広がっていきそうです。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆　お 知 ら せ　◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

開館５０周年記念特別企画展
故熊野敏夫先生の愛した化石たち

熊野敏夫先生の生い立ちや業績を紹介し、ゆかりの化石や鉱物、その他の品を展示して、在りし日の姿を偲びます。また、金生山化石館の５０年の歩みについても紹介します。企画展に合わせて、この後も記念誌の刊行や講演会の開催（２月）など、関連事業も計画されています。

開催期間：　平成２６年１０月１１日（土）～　平成２７年１月３１日（土）
場　　所：　金生山化石館　２階展示室
休 館 日：　火曜日　（祝日の翌日　　年末年始：12/29～1/3　）

「金生山再発見」を刊行

開館５０周年を記念して、化石館のあゆみと館所蔵の化石や鉱物の紹介、また金生山にかかわる話題のいくつかを紹介した書物を刊行します。知っているようで知らなかった、新しい金生山の魅力を再発見してください。

１１月３日発刊　　関係機関に配布後、実費での販売も予定しています。

問い合わせ：　大垣市金生山化石館　　電話　（0584）71-0950　（ファックスも同じ）
Email　kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp